

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2012/12/28	2013/11/29	2013/12/13	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	10,395.18	15,661.87	15,403.11	15,942.60	2013/5/23	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,938.11	16,086.41	15,755.36	16,174.51	2013/11/29	10,404.49	2011/10/4
円/ドル	円	85.96	102.44	103.21	103.92	2013/12/13	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

市場予想を上回る米国雇用統計の発表等を背景に円安ドル高が進行したことを受けて反発

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が+103.25円(+0.67%)、TOPIXが+3.05ポイント(+0.25%)と市場予想を上回る米国雇用統計の発表等を背景に円安ドル高が進行したことを受けて反発しました。業種別(東証33業種)にみると、鉱業、情報・通信業、ゴム製品など19業種が上昇する一方、電気・ガス業、化学、保険業など14業種が下落しました。週明け9日の日本株市場は、先々週末の米国市場において、市場予想を上回る雇用統計の発表を背景に米国株市場が大きく上昇したことや103円台まで円安ドル高が進行したことを受けて大幅高で始まった後、終日高値圏で推移しました。翌10日も、103円台半ばまで円安ドル高が進む中、終日底堅く推移しました。しかしその後は、米国議会において今後2年間の歳出内容で合意に至ったことを背景に17・18日に開催されるFOMCでQE3(量的緩和第3弾)縮小開始が決定されるとの見方が一段と広がる中、投資家のリスク回避姿勢が強まったことを受けて、軟調な展開となりました。週末13日は、ドル円が一時的年初来安値となる103円90銭台まで円安ドル高が進んだことから、反発して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
12月16日	Mon	日本	短観 大企業製造業	12月調査 12
		米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	12月 -2.21
		中国	HSBC/マークイット フラッシュ製造業PMI	11月 -0.1%
12月17日	Tue	米国	経常収支	12月 50.8
		米国	CPI(消費者物価指数)(除食品&エネルギー/前年比)	7-9月期 -989億ドル
		米国	FOMC(米連邦公開市場委員会)18日まで	11月 1.7%
12月18日	Wed	欧州	ユーロ圏財務相会合(ブリュッセル)	
		日本	貿易収支	11月 -1兆927億円
12月19日	Thu	欧州	EU(欧州連合)財務相理事会(ブリュッセル)	
		日本	全産業活動指数(前月比)	10月 0.4%
		米国	日銀、政策委員会・金融政策決定会合(20日まで)	
		米国	EU(欧州連合)首脳会議(ブリュッセル、20日まで)	
		米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	12月 6.5

決算発表予定 他	日本	決算発表 : 12/20 ニトリホールディングス
	米国	決算発表 : 12/18 フェデックス、オラクル 12/19 ナイキ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 米国のFOMCを受けて、週後半は波乱含みの展開と予想する ～

今週の日本株市場は、17・18日に米国で開催されるFOMCにおいてQE3の縮小開始が示唆されるか否か、またその結果や声明を受けて米国の株式や長期金利、ドル円を中心とした為替がどのように反応するかが最大の焦点とみており、週後半は波乱含みの展開を予想しています。特に、QE3縮小開始の決定を受けて米国の10年金利が3%台に上昇するようであれば、リスク・オフ(リスク回避)姿勢の高まりから、15,000円近辺まで急落する可能性もあると考えています。経済指標では、米国で16日に発表されるニューヨーク連銀製造業景気指数、鉱工業生産、17日のCPI、中国では16日のHSBC/マークイット フラッシュ製造業PMI、日本では18日の貿易収支が、会議日程では、19・20日に開催される日銀の金融政策決定会合やEU(欧州連合)首脳会議が重要と考えています。